

# お経のことば



ああ、友よ、まさにその時、私はあなたにその宝石を与えていたのだ。

その時、宝石を衣服の縁にこのように結び付けておいたのだ。

ああ、友よ、しかしながら、あなたは、「わたしのために何が結び付けられているのか？あるいは

誰が結び付けたのか？理由は何なのか？」

と、実に調べることもなかった。ああ、友よ、苦労して食べ物や着るもの求めながら、

その得たもので満足しているあなたは愚かである。

妙法蓮華經 五百弟子受記品第八

植木雅俊 訳

妙法蓮華經とは紀元0年頃から100年頃にかけて成立したと言われる、28章からなる大乗佛教の經典です。前回紹介した原始佛教のお経に対して、今回は大乗佛教のお経を取り上げてみました。大乗とは、出家した僧侶だけではなく老若男女あらゆる職業の人々が共に悟りを開くための教えです。妙法蓮華經と言えば、日蓮宗や創価学会の信者の方だけが唱えるお経として世間では思われるがちですが、事実はそうではなく、天台宗、真言宗、禅宗など多くの宗派で日常唱えられています。

上のお経のことばに至る経緯を説明しますと、お釈迦様の説法を聴きに来ていた500人の弟子たちが、「あなたたちも将来私と同じ仏になるんですよ。」という予言を受けたことで無上の歓喜を興し、ある例え話を以てお釈迦様の聖なる徳を讃えるという場面になります。その例え話とは、〈ある男が友人の家で美味しいごはんとお酒を御馳走になって、そのまま気持ちよくなつて寝てしまった。友人は用があつて先にいなくなるので、男が目を覚ました後も食べるものに困らないように、値段を付けることもできないほど高価な宝石を男の衣服の縁に結び付けておいた。やがて目覚めた男は旅に出る。しかし、友人がせっかく結び付けてくれていた宝石に気づくことなく、苦労を重ねやつとの思いで得た食べ物を、それが自分にとって最高のものであると思っていた。そんな時、男と友人はバッタリ再開する。〉というものです。再開した時、友人が男に対して言ったのが上のお経のことばです。

まるでメーテルリンクの青い鳥のようなお話ですが、この例え話に登場する男とは我々凡夫であり、友人はお釈迦様を暗に示しています。それではこの宝石とは何を示しているのか・・・、それは我々が本来具えている『仮性』なのです。仮性とは聞き慣れない言葉ですが、字の通り『仮の性質』ということです。そしてそれは森羅万象のあらゆるものに本来具わっているとされています。しかし残念ながら、特に人間はそのことになかなか気づけないです。仮性とはいろんな説明ができますが、私はよく『仮性を開く』という言い方をしています。思うに仏教的な精進とは、修行や研鑽を通して、何かを自分のものとして積みあげることではなく、我々が生きる日常のなかでどれだけ仮性を開くことができるか、そこにあるのではないでしょうか。

我々の日常はふとした仮性の輝きに満ちています。春夏秋冬自然の美しさ、家族からの無償の愛、友人同僚からの思いがけない<sup>イタツ</sup>勞り、戦争を嘆く平和への祈り・・・、これらは見返りを求めてあるのではなく、さらに言えば、そこに「私が！私が！」という主語、つまり『我欲』があるのではないです。美しいと心から思った時、その心はもう美しいものと同じなのです。平和を願い心から祈る時、その心は愛に満たされています。

How manyで量ることのできない無量の仮性、それを少しでも広く開かれたものにしていく。そんなことを考えながらも、一方では感情の波に左右されてしまう毎日の私ではありますが、大事なことは、私が何らかの穢れなき崇高なものに変わることでは決してなく、お釈迦様が教えてくれた仮性に『気づき』ことなのだと念じ、このお経を唱えております。

## ● 3月21日 月曜日（振替休日） 献茶彼岸会

お位牌を持参いただき、お抹茶を献じて供養をします。

## ● 4月24日 日曜日 大瀧山でヨガをする日

標高247mの大瀧山の頂上にてヨガをします。

## ● 每月28日 柱源護摩供

本堂の護摩壇で炎を上げて祈祷と供養をしています。  
午前9時と午後3時の2回です。

※葬儀が重なると変更される場合があります。ご了承下さい。

護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

☎ 0889-24-7244

仏事に関するお悩み、ご質問、  
行事に関するお問い合わせ等、  
お気軽にお電話ください。

